

北陸新幹線敦賀駅舎のデザインに関する要望書

平成29年1月17日

敦 賀 市

時下ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃は、敦賀市における新幹線整備の推進につきまして、格別の御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、北陸新幹線の敦賀開業は、『鉄道と港のまち』を掲げる本市にとって、地域経済の再生及び地方創生の観点から、大きく明るい道が開かれた訳であります。

今後、新たに建設される新幹線敦賀駅舎につきましては、北陸新幹線で敦賀に降り立つ方々の玄関口として、また、敦賀市民にとっては街を象徴するシンボルとして、本市の将来の発展を見据える上で、非常に重要な建築物であると捉えております。

この認識のもと、新幹線駅舎のデザインコンセプト策定にあたり、市民及び各委員会から御意見を伺い、多くの方々に親しまれる駅舎となるよう検討を重ね、このたび、その成果を取りまとめました。

つきましては、今後の駅舎建設に向けて、要望するデザインコンセプト及び付帯意見について最大限反映していただきますようお願い申し上げます。

平成29年1月17日

鉄道建設・運輸施設整備支援機構
鉄道建設本部 大阪支社
支社長 蓼沼慶正 殿

敦賀市長 淵上隆信

新幹線敦賀駅舎デザインコンセプト

空に浮かぶ ～自然に囲まれ、港を望む駅～

<説明>

このコンセプトについては、新幹線敦賀駅舎の最大の特徴として、ホームが高い位置に建設される予定であることから、高さというインパクトのある駅舎を「空に浮かぶ」という表現で強調し、また、大規模な建築物の威圧感を抑え、周辺との調和の取れた景観となるよう願いを込めています。

また、日本海に面し三方を山で囲まれた豊かな「自然」は、本市の重要な資源であることから、周囲の自然の景色に溶け込んだデザインにしてほしいという想いと、駅舎から望む「港」は杉原千畝が発行した命のビザによって多くのユダヤ人が降り立った人道の港であるとともに、欧亜国際列車と繋がる港であることから、この歴史ある敦賀港への想いを汲んでいただきたいという願いを込め、このデザインコンセプトに決定しました。



<付帯意見>

新幹線駅舎に係る付帯意見として、次のとおり要望します。

- ・ 風景の邪魔にならず、かつ特徴的なデザインの駅舎
- ・ 敦賀駅交流施設オルパークの後ろに新幹線駅舎ができることへの配慮
- ・ 新幹線駅舎の高さによる威圧感を抑えたデザイン
- ・ 新幹線ホームから市街地へ出るまでの連絡通路の活用（敦賀の港の歴史等を感じさせるような演出）
- ・ 敦賀をアピールできるような、コンコース（中央広場）のデザイン
- ・ 過ごしやすい快適で利用しやすい駅舎（夏は涼しく、冬は暖かく）
- ・ ホームや通路から敦賀の街を眺められる工夫（ガラスや透明パネルの活用）
- ・ 内装等には天然木材等の活用を検討（地域資源の活用）

市民の意見を最大限取り入れた新幹線駅舎となるよう、施設や機能について協議及び調整をお願いします。

